

本書の特徴

* 大正時代十五年間に発行された中央紙、地方紙、海外邦字新聞のほとんどすべてを渉猟し、約五〇〇〇件の怪異・妖怪記事を抽出して原資料として影印し二分冊に収録、研究者に供するようにした。

* 約五〇〇〇件の記事を時系列に整頓し、データ(日付・新聞名)は活字に起こし直して小見出しに。さらに番号を付けることにより、必要な記事の検索をしやすくした。

* 多岐にわたる内容を分類し、マークを小見出しに付すことにより、一目で記事種類を判別できるようにした。利用者の研究テーマにアプローチしやすいよう、下巻巻末に内容分類による索引を付けた。

* 大正時代における怪異・妖怪事件の動向や諸相についてまとめた論文を上巻に収録。各分野の研究の一助に。

定価●各本体 四五〇〇円+税

体裁・造本●A4判変型

上製クロス装

ボール函入

各約一二五〇頁

(上)ISBN978-4-336-05812-6

(下)ISBN978-4-336-05813-3

『明治期 怪異妖怪記事 資料集成』



明治年間に発行された全国の邦字新聞から、約4400件の怪異・妖怪事件記事を抽出した資料集成。

定 価●本体 45,000 円+税
体裁・造本●A4 判変型
上製クロス装
ボール函入り
一三五四頁

好評既刊!!
ISBN 978-4-336-05041-0

狐や狸が跳梁跋扈し、
天狗が人を攫い、
妖怪がコレラの流行を予言する……
驚愕の記事の数々。



* お取扱書店

* 発行

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427
http://www.kokusho.co.jp
e-mail:sales@kokusho.co.jp

大正期

湯本豪一●編

怪異妖怪記事

資料集成

上巻・下巻

大正時代に出た、起こった、
妖怪・幽霊・怪現象の新聞記事
約五〇〇〇件を収録



編者の言葉

現代につながる時代の怪異とメディアの全貌を知る一冊

湯本豪一

二〇〇九年一月に刊行した『明治期怪異妖怪記事資料集成』では、明治時代の新聞における怪異記事を集積し、その動向や特徴を明らかにした。この明治時代における怪異記事の展開をうけて、大正時代にはどのような怪異記事が新聞で報じられたのだろうか。それらの幾多の記事からいかなる特徴が指摘できるのだろうか。そうしたことを浮き彫りにしていくことで、開国から半世紀を経た近代社会で怪異記事の動向がどのように展開していったかを捉えることが可能となることだろう。それは明治時代との相違を明らかにし、「現代社会における怪異」への道程を照射することでもある。こうした意義を踏まえつつ今回集成した大正時代の膨大な怪異記事をも、読者の今後の研究に役立てていただければ幸いである。



相違を明らかにし、「現代社会における怪異」への道程を照射することでもある。こうした意義を踏まえつつ今回集成した大正時代の膨大な怪異記事をも、読者の今後の研究に役立てていただければ幸いである。

天狗か狐狸か (三)
 昨夜に研い、怪しき太鼓の音、何事か世間にある度に、鳴るハテ前妖な裸体の死体で名高い片山神社のこぞ、一層聴き耳を立てると、今度は木ヶ崎の方向に近ひ所ろで、而も速く



●扶桑新聞 大正一年十月三十日 1-195

て居るダラ、版をかけよつて見ると、夫れは矢田川の堤、雨後の事、水無川も今日に限つて、渾濁水が流れて居る。目的にした森は川より、ズツと向ふで、そして太鼓の音も、パツと止つた。ハテ益す而妖ぢや(如家露士)

く啼いてゐる、夫れにしても折角此まで探り付けて、探検を躊躇するのは大人氣ない、去りて昔の森を探ることも云ふ事は不可能である、夜は益々更けて月は愈々沈へ、
萩の葉のそよぐ のも身にしむ様である、月を浴び寒く光る川面を吹ひて来る風は、仲秋のそれと思はれない寒さである、風で倒れた鱗龍の様、松の木に腰を掛けて暫し歩へた、三階橋へ廻れば頗る遠い、去つて枇杷島の方へ廻ると、非常の迂回である、何でも今夜は狐狸の友になつた妖で、向本の黒い森を目當てに川へ這入つて進んで見よ、アノ森こそ、頗る怪しい、ソツタくと自ら背き、必生の刃を奮ひ尻端折りで川へ這入つた、冷い事は冷いが案外に淺かつた、トウ／＼對岸に上つて更に北方の森を透かして見ると、又もや庄内川より向ふである事判つた、サアもふこうなるぞ、川を渉るの

死霊のたたり (五)
 ●小樽新聞 大正一年十月三十一日 1-196



死霊の出
 因長は圓ら小亭草紙

●佛壇のやうに
 ちり心を得
 り、船中、
 折、人、
 同、か、
 かね、
 ば、
 撫、
 掛、
 中、
 中、
 水、
 生、
 一、
 が、

編者紹介

湯本豪一
 ゆもと・こういち

怪異・妖怪資料研究者。
 「妖怪展 現代に蘇る百鬼夜行」「日本の幻獣 未確認生物出現録」などの展覧会を開催するとともに、平成一三年に国立歴史民俗博物館で開催された「異界万華鏡展」をはじめとする多数の妖怪展の協力・解説執筆を行う。さらに、著作、論文、研究発表、講演などで怪異・妖怪についての研究成果を発表。妖怪絵巻の未見資料を発見、分析するなど、調査・研究を継続している。主な著作に『明治妖怪新聞』(柏書房、九九年)、『江戸の妖怪絵巻』(光文社、〇三年)、『妖怪百物語絵巻』(国書刊行会、〇三年)、『日本幻獣図説』(河出書房新社、〇五年)、『明治期怪異妖怪記事資料集成』(国書刊行会、〇九年)等。

本書をお勧めしたいのは

●民俗学および歴史・風俗研究者……古くからの民間伝承が、形を変えながら明治時代の生活に息づき、事件として多数記事化されている。
 ●社会学研究者……新聞という当時最新のメディアによって、怪異・妖怪事件が定型化され、普及していく様子が一冊のなかで見取れる。
 ●日本文学研究者……都市怪談、幻想文学、ホラー文学の原型ともいえる記事多数。現代まで語り継がれる話の数々が生起する様が、時間の流れのなかで見取れる。

